



目指す学校像	新たな時代に向けて、伝統ある進学校としての期待に応えつつ、自主自立の校風を継承・発展させ、リーダーとなる良識ある人材を育成する。
重点目標	1 文武両道—学力向上と特別活動等を両立させ、高い目標に果敢にチャレンジする生徒を育成する。 2 自己実現—様々な機会を通して視野を広めつつ、高い「志」を実現できる生徒・グローバルに活躍できる生徒を育成する。 3 情報発信—積極的に情報を発信して、生徒・保護者・地域等からの期待と信頼に応える学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の授業満足度は高いが、学力層全体の底上げと特に上位層の高い志の維持を同時に実行する体系的な指導を一層継続する必要がある。 ○新入試や平成30年3月告示の学習指導要領への対応を継続して進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した学習者の育成に向けた高度な授業内容の構築と指導方法の工夫改善 次年度の単位制への移行を踏まえ、教職員一人一人が学校改善の方策を考え実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①入学当初から、学習法講座や卒業生講話を実施する。 ②継続的な朝自習や自主ゼミ指導、学習環境整備を通じ生徒の主体的学習の質と時間を確保させる。 ①主体的対話的で深い学びにつながる学習を実践するなど、授業改善に取り組む。 ②授業相互見学週間や校内研修事業を充実発展させ、教職員の指導力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自主ゼミ・補講の開講状況及び参加状況 ②1・2年生の平日学習時間 ①「授業に関する生徒アンケート」結果 ②実施状況、意識の変化と活用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な授業内容の構築と指導方法の工夫改善の面では評価項目を達成した。 ○夏期62講座開講のべ910人参加。朝間等に通年の補習を各学年で実施。 ○平日学習時間1年83分、2年94分。休日1年150分、2年156分。 教職員による学校改善の面では評価項目を概ね達成し、さらに継続する。 ○授業研究と事後協議会5回実施等校内研修28回、外部各種入試研究会等に25回53名参加。 ○ポートフォリオ作成に向け資料の蓄積を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> A A
2	<ul style="list-style-type: none"> ○120年にわたり培われてきた校風の下、生徒は切磋琢磨しながら充実した学校生活を送っている。 ○特に2年次での学力向上の停滞を防ぐため、進路情報を家庭と共有しながらきめ細かい進路指導を行う必要がある。 ○グローバル化社会でリーダーとなる資質の向上を図るとともに高い「志」を実現させる校内組織をさらに活性化させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点を養う事業等を充実させ、生徒が高い志や目標にチャレンジする気概を育てる。 校内指導の体制を連動させて、高い次元での進路希望を実現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校の国際交流事業や県のリーダー育成推進事業等への参加を勧め、学校外のみも活用し生徒の意欲を高める。 ②SSHの成果を踏まえ「サイエンス探究」「自己探究講座」を軸に主体的な学びを実践する。 ①大学入試改革や次期学習指導要領等に向け、学習企画部をハブ組織とした有機的な対応を行う。 ②各学年の指導内容等の情報を共有するため、外部の説明会等へ積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①参加生徒の事前事後研修への意識・意欲の変化と成果の全校生徒への還元 ②総合的な学習の時間への生徒の意識・意欲の変化 ①模試分析、各事業での生徒・保護者・参加者によるアンケート結果 ②参加状況と情報の活用状況 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル事業等については評価項目をほぼ達成した。質も年々上がっている。 ○エンパワメントプログラムは生徒の評価が高く2期に分けて実施。 ○県立高校グローバルリーダー育成プロジェクト4名派遣、全校生徒に英語による研修報告を実施。 ○サイエンス探究・自己探究講座を中心にプレゼンや論文の演習を展開。 指導体制構築と高次元での進路希望実現についての成果が上がっている。 ○学校評価アンケートでは進路目標達成のための取組・情報提供・教育課程等の肯定的評価が90%超の高水準を維持している。 ○外部テスト実施後は分析会を実施し、得た情報を面談等で有効に活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> A A
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページをはじめあらゆる機会に本校の教育活動を発信しているが、さらなる充実を求める意見がある。 ○体育館改修、食堂の空調更新、第2グラウンド整備等を進めたが、引き続き安心安全な学校づくりを一層進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動を積極的に情報発信し、生徒保護者地域社会等からの期待と信頼に応える。 学習・生活環境を一層整備し向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新分掌入試広報部を軸に土曜公開授業、学校説明会、進学フェア等の行事を積極的に行う。 ②小学生向け説明会や科学教室等、地域連携事業を実施する。 ①緊急連絡システムの運用を積極的に進め、緊急時生徒用備蓄品を整備する。 ②AED/ピエバン講習会の実施や物品の自己管理意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの更新回数・学校案内やポスター内容 ②土曜公開授業見学者人数およびアンケート結果 ①緊急時生徒備蓄品の整備状況 ②危機管理に関する意識の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の情報発信を積極的に行っており、評価項目をほぼ達成した。 ○授業公開への外部参加者がのべ1164人であった。 ○家庭教育学級はじめPT会行事への保護者の参加率が高い。 ○冬休み科学教室は市内4校が連携し570名の小中学生が参加。 環境整備についてはさらに努力する。 ○教室プロジェクター設置、管理棟教室のカフェテリア、生徒机更新等学習環境づくりを進めている。 ○同窓会の支援によるクラス図書配架等ツトケアの充実に取り組んでいる。 ○生徒自転車通学区域の見直しを実施 	<ul style="list-style-type: none"> A B

学校関係者評価	
実施日	平成31年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○「教職員の指導力向上を図る」について、ほぼ達成している。達成度評価が厳しい印象だが、今後どのような改善を目指すのか。	○ポートフォリオ作成にあたりサイエンス探究の成果も載せたい。川高生こそ力を発揮できるはず。
○保護者から公欠者へのフォローの要望がある。学校にやってもらうのではなく生徒からアクションを起こすべき。	○京都大に続き東京外語大との連携協定を機に有意義なプログラムを開発する。
○「90%超の高水準を維持している」「活用できた」という評価であればBではなくAにしてよい。	○エンパワメントプログラムの実施時期、内容を精査し、さらに生徒の実情に合ったものにする。
○全員受験の模試や検定について受験先を選べるようにしてほしい。	○外部検定試験の導入等大学入試の変革期に従来以上の体系的な指導の確立を目指す。
○生徒向け進路資料を早い時期に配布してほしい。	○生徒向け懇談会や保護者向け学習会に卒業生の力を積極的に取込んでいく
○指定校推薦への指導を強化すべき。	○学校案内の完成時期を早め、より積極的な広報を行う。
○学習時間確保のためにも部活動指導方針のとおり進めてほしい。	○保護者向け通知は当日にHPに掲載しているがさらなる周知方法を検討する。
○学校評価アンケートの保護者回答率が上昇したのは情報発信が浸透した結果と考えてよい。	○図書委員による蔵書点検や資料更新・曝書等により図書館の質維持につながっている。
○授業公開参加者の保護者や小学生の割合が高くなったが、中学生が減っている。	○引き続き施設維持改修への予算確保に努める。
○図書館の質維持はリファレンスのレベルによる。単なる勉強場所では意味がない。図書館ネットワークの広報も必要。	
○リフォーム工事を早く進めるよう要望してほしい。まずは清掃用具の更新と清掃時間の確保が必要だ。	
○開かれた学校とセキュリティとの両立を検討すべき。	

